

令和7年度 第2回 藤沢市立藤ヶ岡中学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2025年8月21日(木) 10時00分～12時00分

場 所 藤沢市立大鋸小学校 3階 図書室

出席委員	堀河 俊介(会長・保護者) 近藤 千鶴(副会長・大鋸小学校長) 高津 直子(大鋸小学校教頭) 富樫 裕紀(大鋸小学校教諭児童支援担当) 小松 琢(大鋸小学校用務員) 田中 舞(保護者) 大谷 美津子(村岡地区青少年育成協力会) 渋谷 幸江(藤沢東部地区主任児童委員) 平石 美和(村岡地区主任児童委員) 金澤 健二(おはようボランティア) 谷津倉 晋(村岡市民センター長) 芳我 美佳子(コーディネーター・保護者)	吉田 葉子(会長) 斎藤 秀竹(藤ヶ岡中学校長) 杉山 博美(藤ヶ岡中学校教頭) 和田 盛孝(藤ヶ岡中学校教諭防災担当) 神戸 良介(藤ヶ岡中学校教諭1年学年主任) 久保田 正明(藤ヶ岡中学校教諭3年学年主任) 上条 哲平(藤ヶ岡中学校教諭生徒指導担当) 小高 未絵(保護者) 関 孝之(保護者) 三橋 誠 (村岡市民センター主幹)	以上 22名
次第	1 開会 2 大鋸小学校長 挨拶 3 自己紹介 4 議題 (1) 学校防災の現状と課題について ・ 大鋸小学校の取り組み ・ 藤ヶ岡中学校の取り組み ・ 課題解決に向けて(学校運営協議会としてできそうな取り組みについて) (2) 藤ヶ岡中学校と大鋸小学校で協働できそうな取り組みについて (3) その他 5 その他 6 藤ヶ岡中学校長挨拶 7 閉会		
協議内容	意見等 *4(1) 学校防災の現状と課題について 【大鋸小学校より】 取組①避難訓練の見直し 目的を明確化し、様々な状況を想定して実施 ②保護者、教職員へアンケート実施 児童の引き取りにかかる時間や従事職員等の把握 課題①防災用備蓄の見直しと管理について ②中学校との連携(避難訓練等)について 【藤ヶ岡中学校より】 取組①生徒へ防災意識を高める指導 1年生:タイムライン 防災行動計画(自助) 2年生:避難所運営ゲーム(共助) 3年生:共助を発信		

②避難訓練・引き渡し訓練の見直し

【課題解決に向けて】

○防災について(意見交換)

- ・児童・生徒が授業で取り組み、親と共有することで家庭全体の防災意識を高めることに繋がる。
- ・大人ができるのは、備蓄。備えられているよ、安心、安全だよと子どもたちに伝えていけたらと思う。
- ・イメージすることが非常に重要。大人もいつ起こるか、明日かもしれない、と考えることが大事。
- ・引き渡しの方法について考えていきたい。

○他校の取り組みについて(情報共有)

- ・市内の A 小学校:入学時にヘルメット(耐用年数は3年ほど)を購入し、椅子の下にネットで収納。
- ・市内の B 中学校:今春より希望者は折畳式ヘルメットを購入した。

○地域の取り組みについて(情報交換)

- ・第一中学校でおやじの会主催の防災イベント、防災ベースキャンプが開催された。段ボールベッドやトイレなどを使用したり避難所運営ゲームを行ったりした。また参加者が米1合持参し、レトルトカレーをかけて食べた。
- ・コロナ前、大鋸児童館の事業として大鋸小学校の体育館に宿泊する防災ベースキャンプや煙体験などをやったことがあった。
- ・民生委員は、発災したら『まずは助かってください。生き残って、その後の活動に携わってください。』と言われている。子どもたちにも発災時、自分の身を守ることを最優先に考えられるようになってほしい。災害を想定し、自分がどうすれば良いのかイメージをしていくが大事。

○地域と学校の連携について(意見交換)

- ・町内会でジュニア防災リーダーをきっかけとした、ボランティアの担い手を育成できないか持ちかけたが、学校と連携が必要という話になった。ジュニア防災リーダーに責任感を求めるのではなく、やったことがあるという経験を培って欲しい。ぜひ学校と協働したい。
 - ジュニア防災リーダーの育成は各学校でほぼ行われている。救命救急講習が主な内容。地域の中で生徒が中心となって活動したり発信したりはしていない。
- ・学校にある防災備品等、場所や使用方法がすぐにわかるものなのか?
 - 学校にある防災備品は市が管理。年に1度、備品の確認等は市の職員が行なっている。
 - 藤ヶ岡中学校は、生徒一人に対して水500mL3本、白米2食分、わかめごはん1食分(計1200円)を入学時に各家庭負担で購入。校内で管理し、卒業時に配付。(市内全中学校同じ)
 - 大鋸小学校は、現在水500mL1本しか備蓄がないため今後検討していく。
- ・炊き出しを行うか等、防災の取り組みや連携は地域差が大きい。そういう文化がこの地域にできてほしい。地域と学校が繋がることが大事であるが、カリキュラムの整備等、難しい現状もある。
- ・7月30日の津波警報、8月に県立スポーツセンターで発見された手榴弾の対応など、いろいろな災害についてシミュレーションをする必要性を感じた。

○2025.7.30のカムチャツカ半島地震による『津波警報発令』の対応について

- ・海側の地域では住民や海水浴客が実際に何も持たずに避難した。避難所によって水を支給するしない等の対応が分かれたらしいと聞いた。
- ・市内で約 5,200 人が30箇所の避難所に避難した。避難区域に指定されている避難所では市の防災備蓄品を支給できるが、避難区域に指定されていない区域では、市の防災備蓄品を支給することはできないとのことだった。
 - 『誰もが避難所に行けば、誰かが何かをしてくれる』という意識があると感じた。避難所を運営する人も被災者である。避難者はお客様ではない。自助・共助とみんなで助け合えるような地域になっていきたい。

○今後に向けて

- ・9月1日の「防災の日」に合わせて子どもたちに伝え、家庭でも話題になるようなきっかけをつくっていく。
- ・自分で自分の身を守る、危険を想像できる力を育てていきたい。
- ・地域と学校の顔が繋がり、日頃から見知った関係になることが、何かあった時の協力体制を築きやすい関係になる。このコミスクでのつながりを大事に、今後できる取り組みを考えていきたい。
- ・『共に学ぶ機会（子どもと家庭、小学生と中学生）』があればあるほど、安定した避難所の運営につながるのではないだろうか。
- ・避難所を運営する人も被災者である。避難所に来た人はお客様ではなく、いる人で運営するもの。防災教育は、そういう場で協力し合うことができる種まきの一つではないか。
- ・小中学生を学校に引き取りに行く順番については、各家庭の事情や安全を考え、各家庭で判断してもらうのがよいのではないか。

*4(2) 藤ヶ岡中学校と大鋸小学校で協働できそうな取り組みについて

特になし

(3) その他

特になし

次回開催日程 2025年11月19日(水)9時30分～
場所 大鋸小学校2階 指導室